

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

蜀素帖 米芾



1、字句「五湖霜」

2、形式「半紙タテ使用。右に「五湖」、左に「霜」と二行に臨書し、余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。

3、概観「今月号課題の「湖」のサンズイをみて驚かれた方もいるかと思えます。米芾の書くサンズイは、この「蜀素帖」をみて多岐にわたっているのがみてとれます。

三点を離れた楷書的にも見えるサンズイ「、ン」は「漫・泛」があり、二、三画目を連綿した「、フ」は「汝・江・深・清・塗」が、同じ二、三画連綿ながら、前月課題の「洞」のごとく二画目を強く打ち込んだサンズイ「フ」は数多く、しかも三画目を真下に打つもの、右に入れるもの、左に開くものに変化に富んでいます。また、今月課題「湖」のサンズイは、「蜀素帖」に出てくる三字ともこの形に書いており他のサンズイとは大きく異なります。何か意図を持って書かれているのではと思われてなりません。

4、各字のポイント

五 △で筆を強く突き徐々に筆を引き上げる。次画も筆を突き○で筆の面を変え押しつけてゆき終画も露鋒で突き、終筆は「湖」に意連。

湖 サンズイから「古」の一画目に意連。△で面を変え縦画は垂直に。「月」は一画二画目は軽いタッチで。三・四画の点はしっかり押し。

霜 雨冠の二画目は少し押し、三画目の縦画は右に寄る。左の点と右の上の点は軽く打っているが、下の点は強く、この点で雨冠のバランスを取っているか。「相」は、ほぼ同じ筆庄による連筆。

半紙課題(予告)

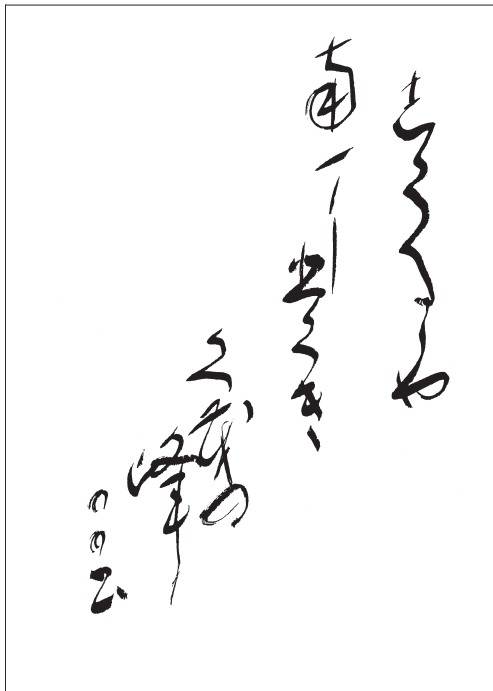
(十一月二十二日締切)



平岡華雪先生書 菊花寒くして更に香し(陸游)

訳：菊の花は寒くなるほど香を増す。

平岡華雪先生書 しぐるゝや南に低き雲の峯(几重)





(亭) 垂虹秋色滿東南 泛々五湖霜氣清 漫々不 (弁水天形)  
垂虹の秋色東南に滿つ 泛々たる五湖霜氣清く 漫々として弁せず水天の形  
この垂虹亭には、江南の秋の景色が滿ち溢れている。滿々と滿ち溢れる五湖に、霜の降りそうな寒さはさすがしく、はてしなく  
広がる水は空と区別が付かない。

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粋可。  
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

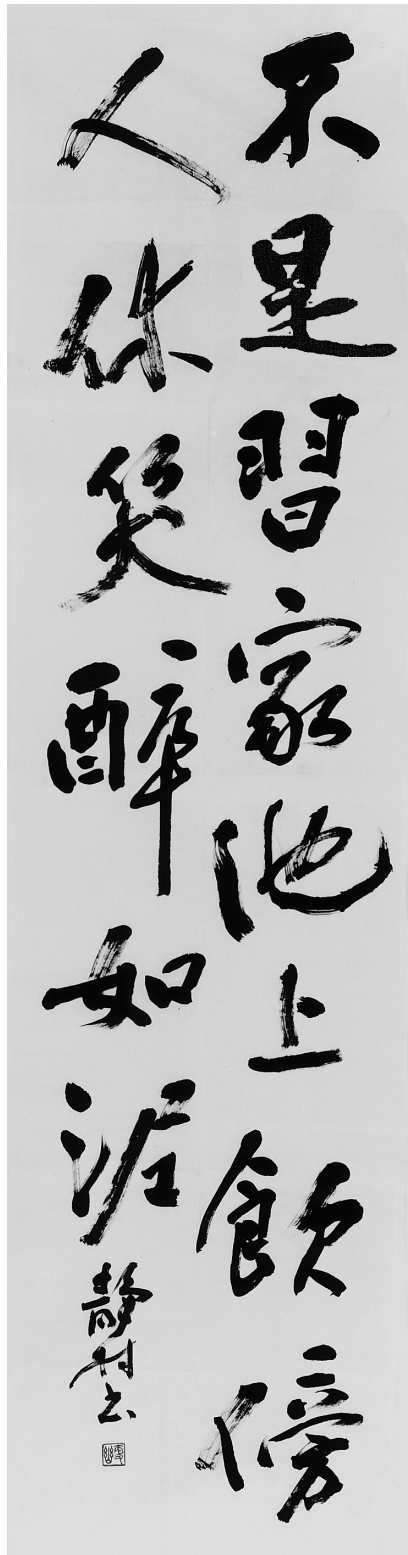
一字書 (十月二十二日締切)

課題

鶴

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

A  
鈴木静村先生書



不是習家池上飲 傍人休笑醉如泥 (張元禎・明)  
是習家池上に飲まずんば、傍人笑うことを休めよ酔って泥の如きを。

B

高橋香樹会長書



是 重心を左にして動きを。習 白の一画目を省いた形。古典には多い。池 三水偏の入筆は突いて開鋒させ、傍は逆に絞ってゴツゴツと。飲 墨継ぎ。偏を大、旁を小。傍 偏小、旁大で変化を試みたが、傍は少し小さめにしたい。人 右払いを伸ばし、右行との並立を避ける。休 人偏に变化(傍との)。笑 犬は古典にも多い。醉 縦画一本極風で味が無い。工夫したい。泥 三水偏は池の偏と相違させて。傍は古典の形を拝借。

今回は延ばせる画が「池・醉」の二字あったので、この長画を使って行を変化させ、同じような線(方向・質)にしないよう心懸けました。二字連綿は二ヶ所。墨継ぎは「飲」と「笑」。しかし、「人」と「休」の終画が書き癖が、同じ動きになったのは悔やまれる。「泥」のサンズイは、米芾の「蜀素帖」にあるものを書いてみたが調和していない。

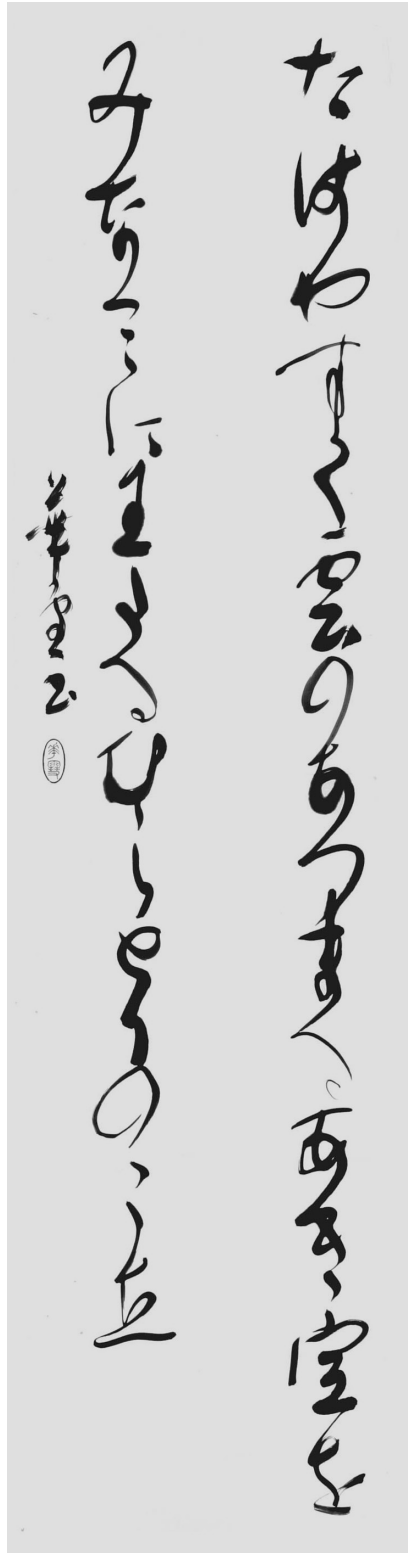
予告 (十一月二十二日締切) 環山翠黛是城郭 平地白雲皆海濤 (虞集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

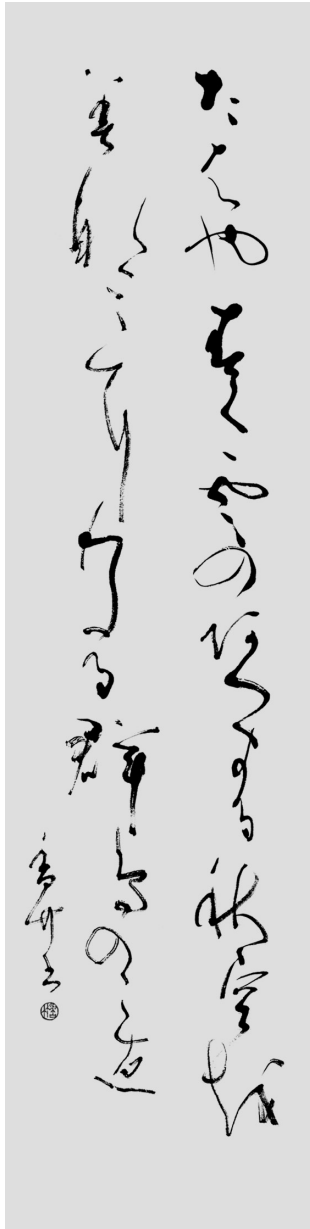
たはやすく雲のあつまる秋ぞらをみなみに渡る群鳥のこゑ (半田良平)  
 たはやす久雲のあつまるあき空をみな三に王多るむらとりのこ恵



B

青柳香竹先生書

た者は春久雲の阿つ末る秋空越美那三耳わ多る群鳥のこ恵



学び方

○この歌は一九四四年七月に玉砕の島サイパンで戦死した子息を悼んでの歌。「南に渡る群鳥の声」はいっそうの悲しみを深くしている。  
 ○書き始めは小さく軽く。二行書きでわかりやすい作品にしました。二行書きは行間のさまざまの変化が作品の見栄えをつくります。筆を立てて強くリズムカルに、そしてゆっくり筆の開きを利用してポイントを考えます。歌意をよく理解し、何度も何度も筆を動かして下さい。  
 「群鳥」は強調しました。

予告 (十一月二十二日締切)

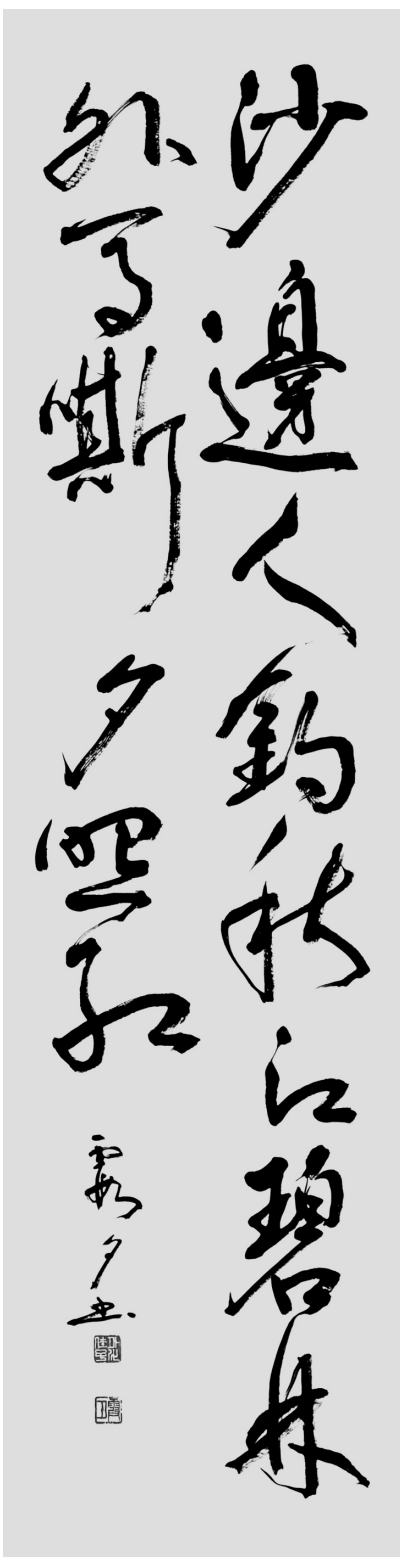
秋雲雀草の穂すりてとぶなべに野の水たまりにぶく光れり (川田順)

半田良平について  
 明治二十年(一八八七)  
 (昭和二十年(一九四五)  
 栃木県生まれ。  
 「国民文学」同人。歌  
 集「野づかさ」「幸木」  
 の他、評論、研究書等。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

外川霞夕先生書

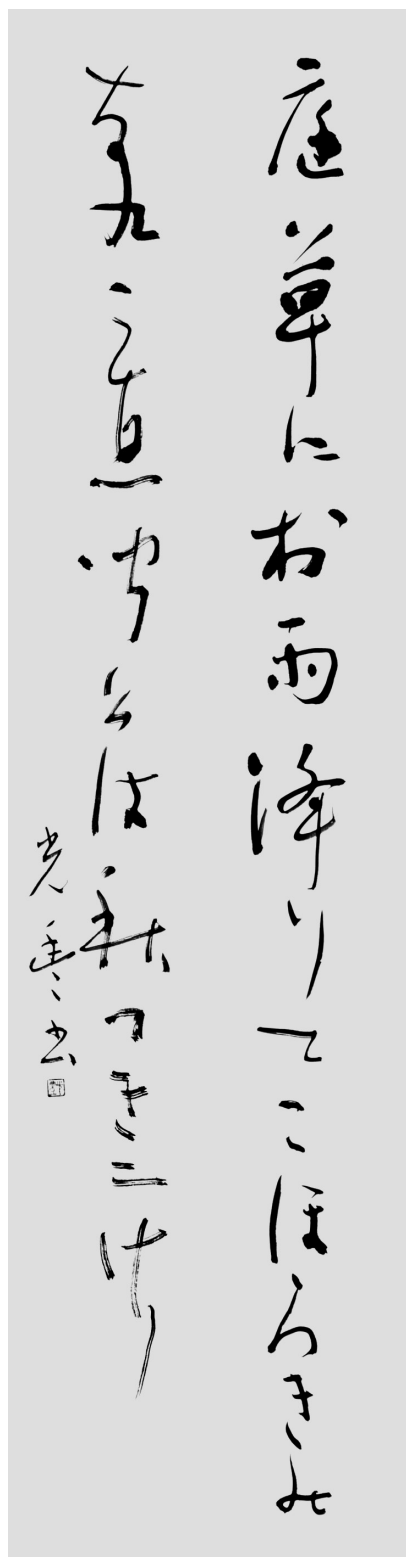
沙邊人釣秋江碧 林外馬嘶夕照紅(王臚)  
 沙辺人は釣りし秋江碧に、林外馬は嘶き夕照紅なり。



訳：みどりなす秋の川の砂べには人が魚を釣っている。夕日の赤い林のそばでは馬が元気よくいなっている。

絹村光豊先生書

庭草に村雨ふりてこほろぎの鳴く声きけば秋づきにけり(万葉集 作者未詳)  
 庭草に村雨降りてこほろぎ能奈九こ恵聞介は秋つき二けり

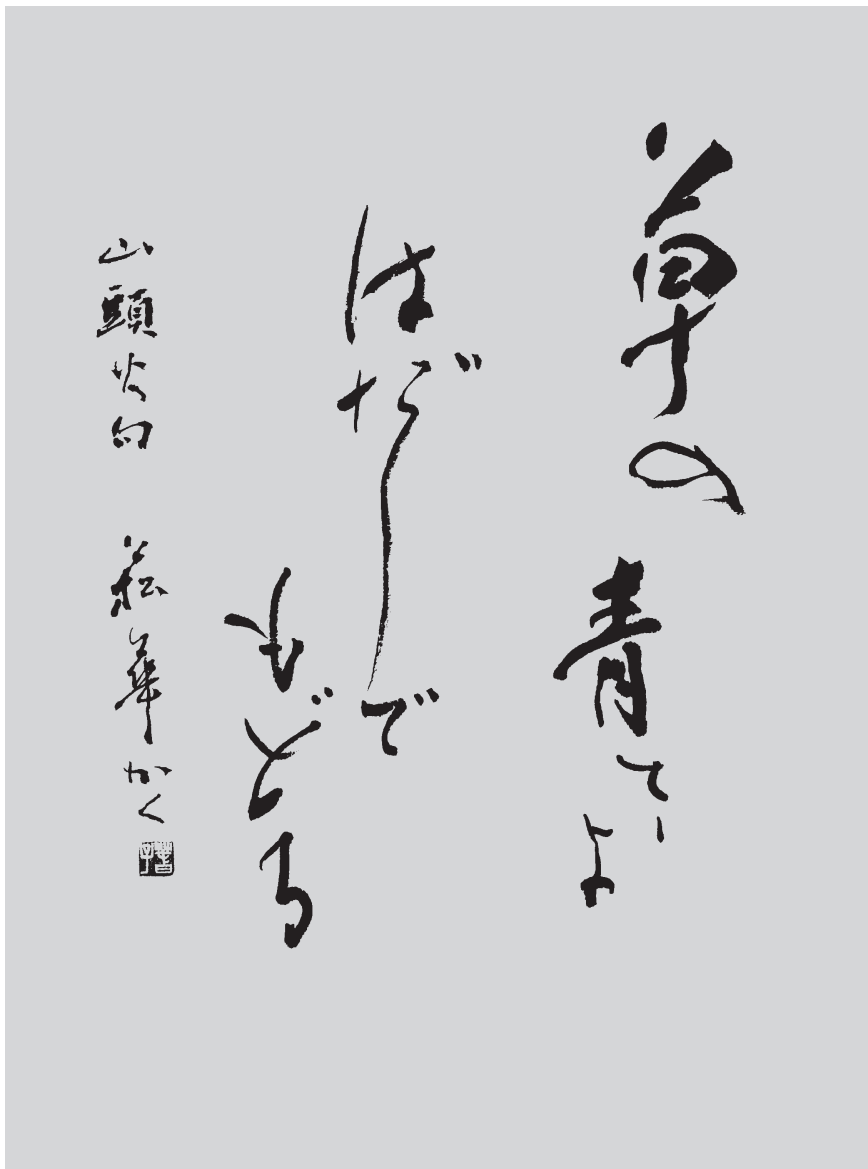


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

小暮 菘華 先生 書

少字数の作品は線質は勿論のこと、一つ一つの文字の表情に配慮して下さい。使用する筆によって表情が異なります。私は中国製の兼毫筆（バネの利いた）で書いてみました。皆さんもいろいろ試して独自の作品を作して下さい。

草の青さよ  
はだしでもどる  
種田山頭火



種田山頭火 (一八八二年～一九四〇年) 俳人。山口県に生まれる。本名正。早稲田大学中退。新傾向俳句誌『層雲』に参加。荻原井泉水門下、自由律(季語や五・七・五という俳句の決まりに捉われず思いをリズムにのせる)に基いた俳句を詠んだ。のち、禅門に入る。多様な精神性が、我々に清涼剤としての英知と憧憬を与えてくれる。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



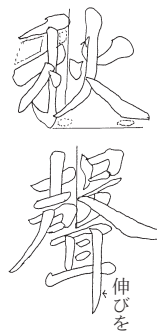
平岡華雪先生書

秋聲天地の間しゅうせいてんちのかん(陸游)

訳：秋の聲は天地間にみちみちて萬物にそのきざしが見られる。

〈特に「右払い」について〉

右行三文字共、左右の「払い」をもつ。この画は暢びやかが基調。特に「右払い」は各字の主要画、これで正否を決めるつもり。ただ右端からはみ出さないで、しかもものびのびと。

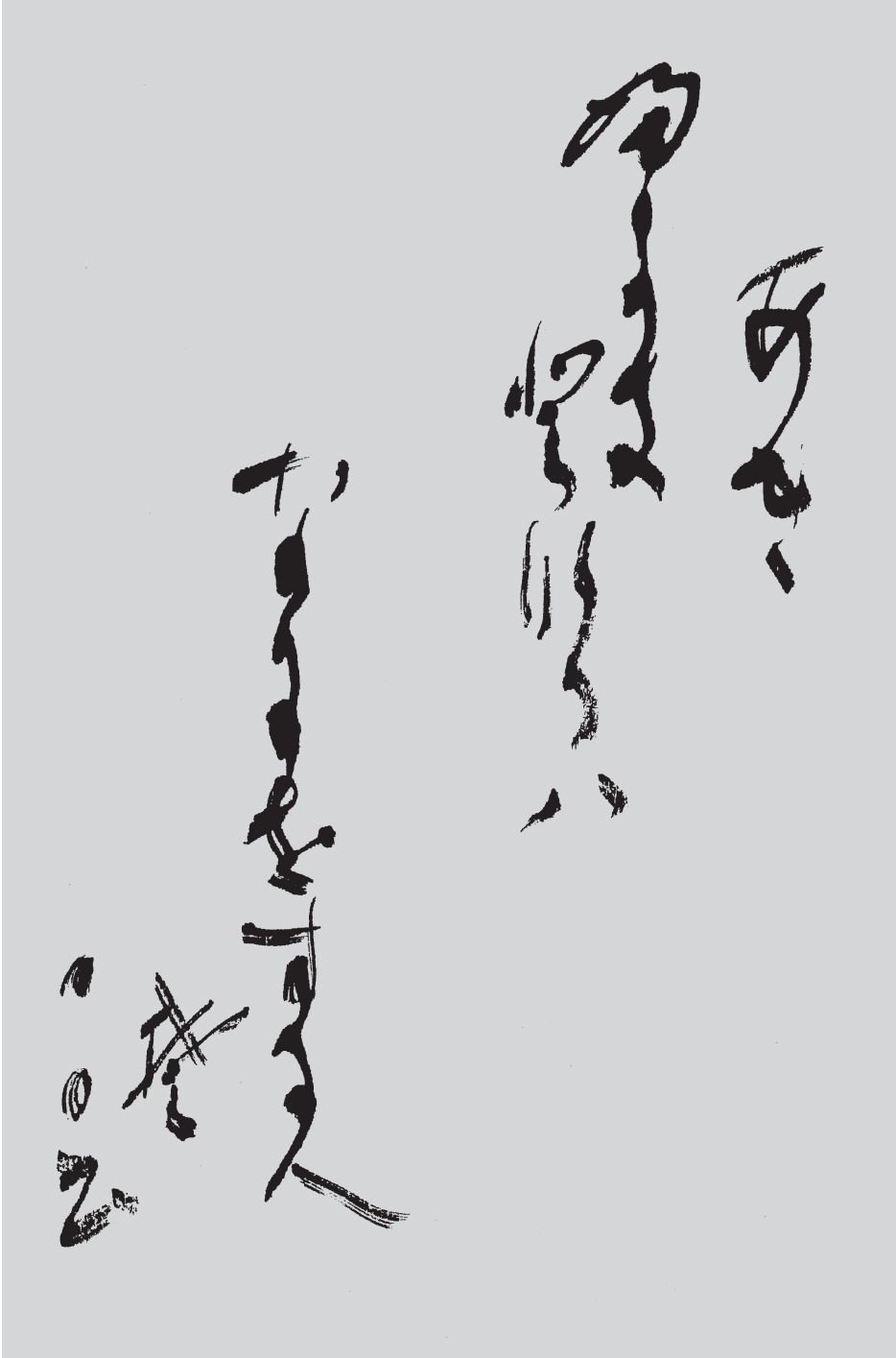


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

秋深きとなりは何をする人ぞ(芭蕉)  
あき婦可支登那り八な尔をする人楚



〈鑑賞を通して〉  
全体鑑賞の焦点は、まず、行頭・行尾の変化と行間の広狭のとり方です。次に、横画の方向に留意してみてください。かな文字は単純形ですから、画の方向、傾きに工夫し、「動き」を表出するように努めて下さい。

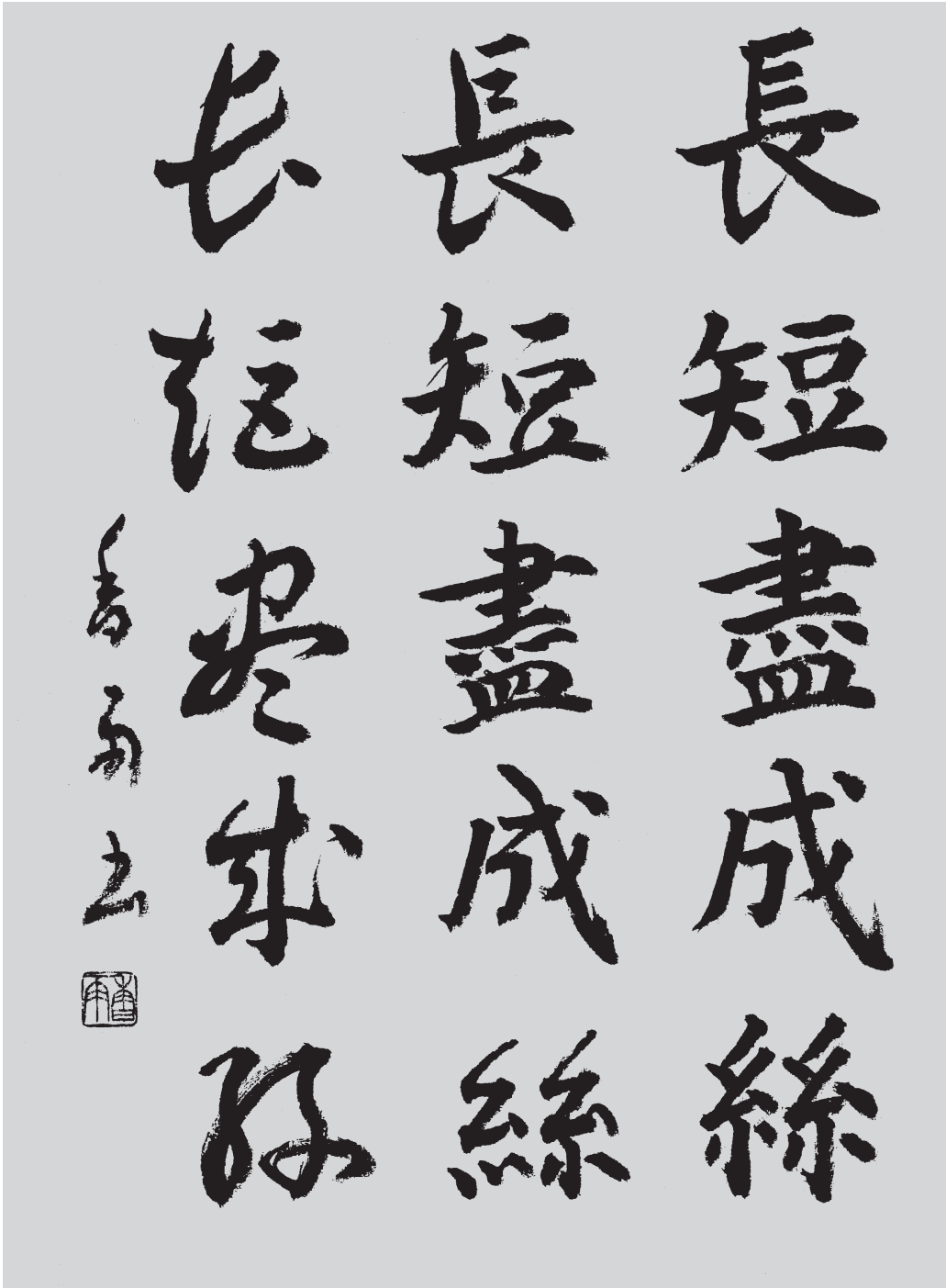
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



酒井香雨先生書

長短盡成絲(李白)  
ちやうたんことごと  
いと  
な  
長短いと尽なく糸と成る



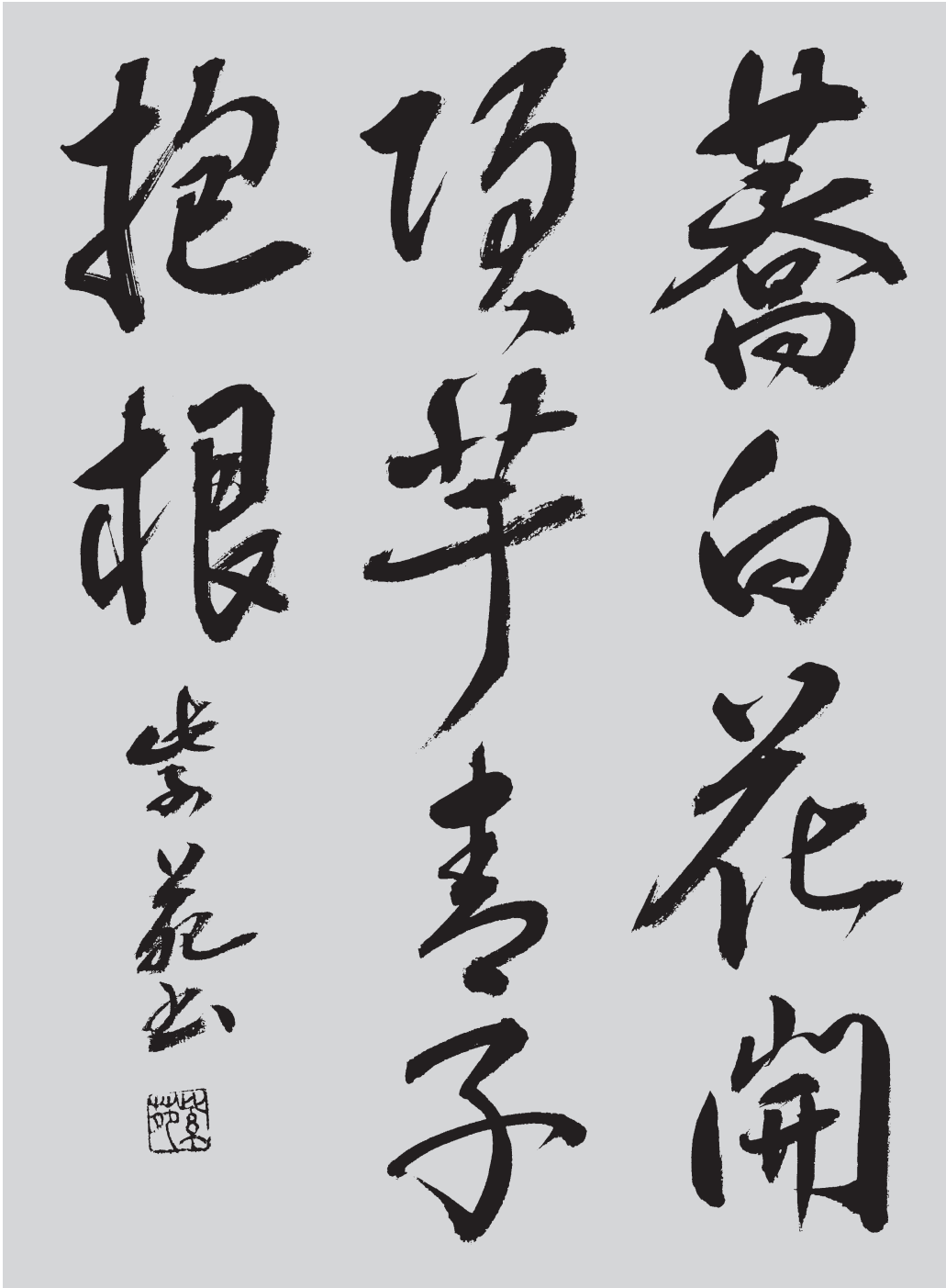
訳：長い毛も短い毛も、すっかり糸のように白くなった。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

山田紫苑先生書

蕎麦花開頂 芋青子抱根（倪大成）  
蕎麦きょうも白しろ花はな頂いたに開ひらき、芋いも青あお子こ根ねに抱だく。



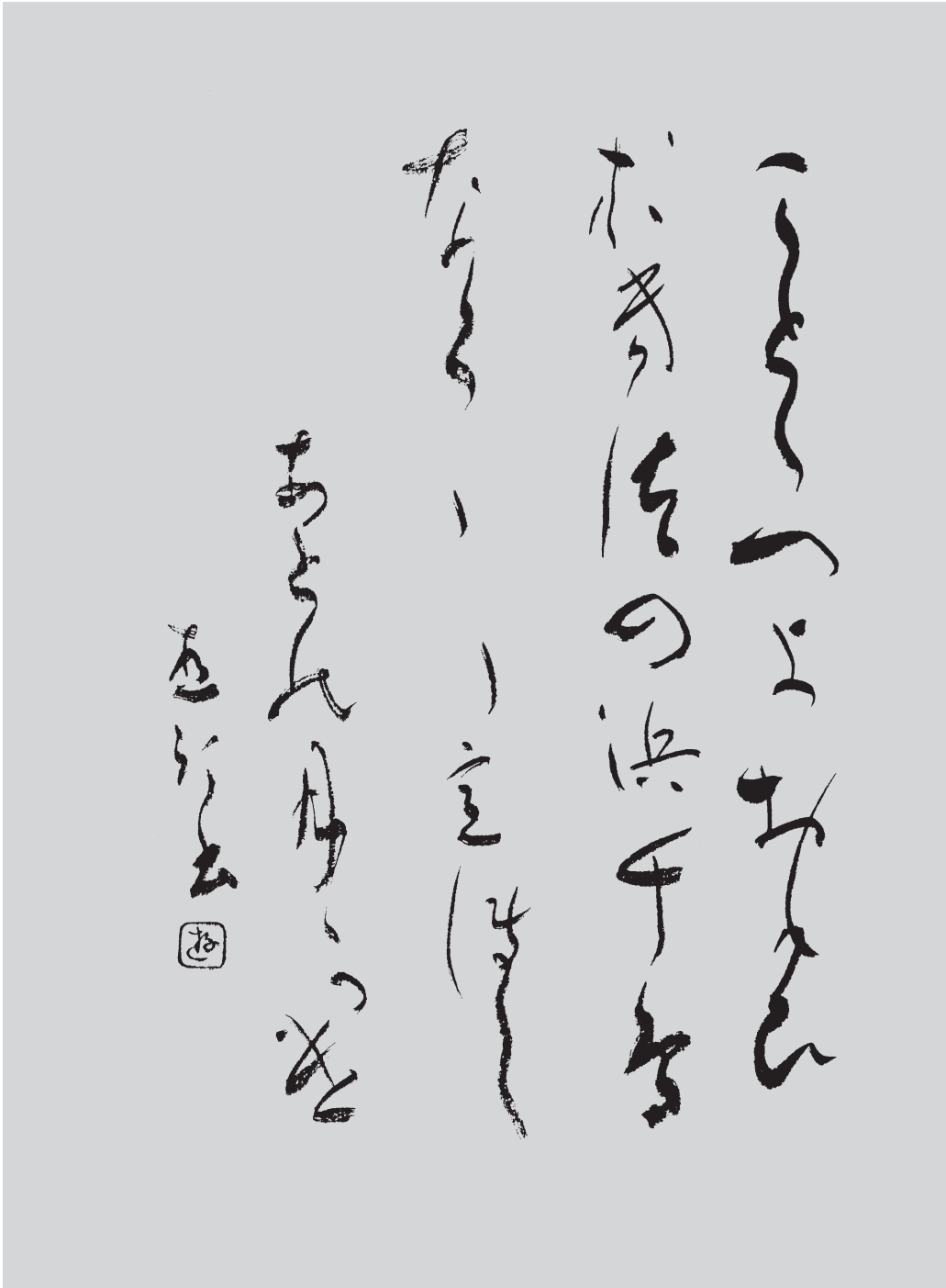
訳：蕎麦の花は白くその頂きにあるが、里芋の葉は青く子はその根に抱かれて生じている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

立川遊汀先生書

ことゝへよ思<sup>おもひ</sup>おきつゝの浜千鳥<sup>はまちどり</sup>なくくいでしあとの月かげ  
ことゝへよおもひ於<sup>おきつ</sup>幾徒<sup>い</sup>の浜千鳥<sup>はまちどり</sup>なくくゝ意<sup>い</sup>傳<sup>て</sup>しあとな月<sup>の</sup>可<sup>か</sup>遣<sup>げ</sup>



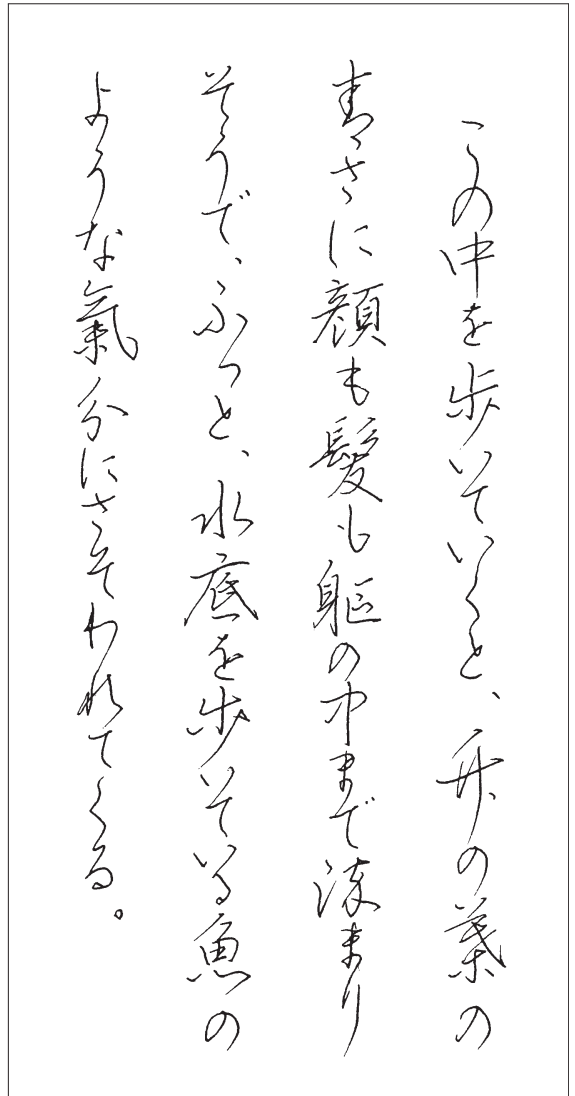
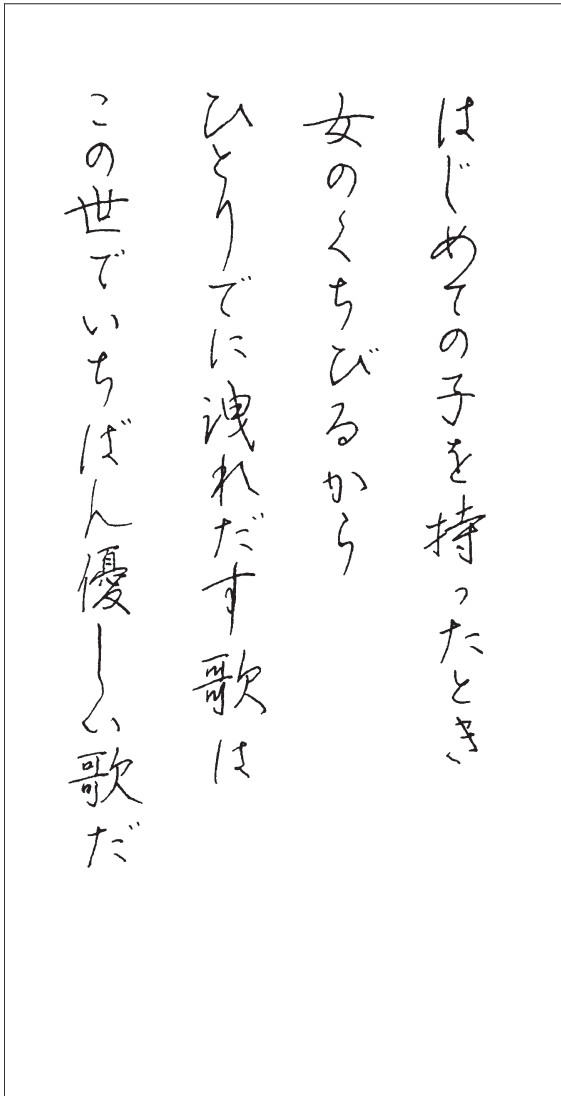
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

この中を歩いていくと、竹の葉の青さに顔も髪も軀の中まで染まりそう、ふっと、水底を歩いている魚のような気分にさそわれてくる。

「京のみち」 瀬戸内寂聴

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)。
- (4) はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

はじめての子を持ったとき  
女のくちびるから  
ひとりでに洩れだす歌は  
この世でいちばん優しい歌だ

「歌」の一節 新川和江